

入選 岐阜県 日置様（高校生 女性）

先日、私は父親を亡くしました。50歳の父の突然の死。それは私にとって、今まで経験したことのないような深い悲しみでした。

お葬式が終わり、少し落ち着いたころ、母が年金のことを言い出しました。

「年金の相談に行くから、一緒に聞いといた方がいいよ。」そういわれ、よくわからないまま役所について行きました。すると、私の知っていた年金とは違う年金の話をしているみたいで、何だかよく分かりませんでした。年金に関して知識がなかったのですが、役所の方の話をきいていると、十八歳未満の子のいる私の母は遺族年金がもらえるということが何となく分かりました。

私には専門学校に通っている兄がいます。父がいなくなってしまうと、母の収入だけで生活していけるのかとても心配でした。母に大きな負担をかけてしまうのではないかと考えていました。しかし、年金相談に行くと、少し安心しました。母も何とか生活費を出していけそうだと言っていました。

今回、私たちが手当てを受けられるのは、父が年金をしっかりと納めてくれていたおかげだと思います。亡くなった後も、私たちは父に支えてもらって生活していくのだと思いました。

私の「年金」のイメージは、将来、おばあちゃんになった時のための生活費でした。だから、自分のために納めているのだと思っていました。ですが、実際はどんな使い道になるのか分からないのだと思います。私たちみたいに家族のお金になることもあるということがよく分かりました。どんなふうに使われるか分からないけど、だからこそ、父のようにきちんと年金を納めなければならないのだと思いました。「年金」の大切さを知ることができました。

役所で話を聞く前は、年金というものは、年をとるまで関係ないものだと思っていました。しかしそれは全く違いました。私たちは二十歳になってからずっと納めなければならないのだということが分かりました。そうすれば、退職した後も安定した生活を送ることができるようになります。

実際に経験したことで年金に関する知識が増え、考え方も変わりました。これからは、頂いている感謝の気持ちを大切に、毎日を生活していきたいです。

これまでは、普通に生活できることが当たり前だったけど、生活できているこのお金は父が苦勞して納めてくれたものなので、そのこともきちんと理解して生活したいです。それに、私も二十歳になったら年金を納められるように、亡くなった父みたいに一生懸命働きたいです。

私のように、「年金」に関して知識がない人は多くいると思います。ですが、とても重要なことで、知っていないといけないと思います。大人になってからでは遅いと思うので、多くの人に理解してもらいたいです。また、年金の必要さや、大切さを十分理解して、生活して行ってほしいと思いました。